

1. 評価結果概要表

作成日平成20年11月 2日

【評価実施概要】

事業所番号	4270600481
法人名	社会福祉法人 秀峯会
事業所名	グループホーム みどりが丘
所在地	〒853-0033 長崎県五島市木場町570-4 (電話)0959-74-6620

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島2丁目7217 島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成20年10月30日	評価確定日	平成20年12月19日

【情報提供票より】(平成20年 9月 1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	昭和・平成	14年	10月	1日
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9	人
職員数	8 人	常勤	7 人,	非常勤 1 人, 常勤換算 7.25 人

(2)建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	2階建て及び一部3階建ての	2階	~ 2階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	7,000 円	その他の経費(月額)	実費	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	180 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	円
	または1日当たり		780 円	

(4)利用者の概要(9月1日現在)

利用者人数	8 名	男性	2 名	女性	6 名
要介護1	0 名	要介護2	2 名		
要介護3	3 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83 歳	最低	71 歳	最高	93 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	みどりが丘クリニック・五島中央病院・山田歯科医院
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

みどりが丘クリニックの2階に当ホームはある。1階が協力医療機関ということもあり、週に1度の往診や採血検査、定期健康診断などを行っている。医療処置を受けながらホームでの生活を継続することも可能で、医療面での安心感がある。近くには小学校や保育園があり、子供たちの笑い声が聞こえてくる。園児は散歩の途中に、児童は登下校の際にホームの前を通りかかり、互いに手を振り笑顔で挨拶を交わすなど、地域に溶け込んでいる。同法人内には特別養護老人ホームやグループホームなどがあり、様々な行事に参加でき、楽しみが豊富にある。また、法人全体で内部研修による介護の知識や技術を習得できる体制を組み、さらに外部研修へも積極的に参加し、資格取得への支援もされている。管理者をはじめ全職員の介護に取り組む意識がとても高く、向上心も強い。入居者は、思い思いのベンチや椅子に腰掛け和やかに、ある時はそれぞれの得意分野で生き活きと、その人らしく暮らされている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 主な改善課題として、現状に即した介護計画の見直しに取り組まれている。モニタリング記録表を作成し活用され、半年に1回だった介護計画作成を3ヶ月に1回実施するように改善されている。災害対策についても改善に向けて取り組まれている。避難時に持ち出す備品を検討され、災害時に最低限必要な入居者の情報と顔写真入りの名札や、非常時の食料品など整備している。さらに、現在、スプリンクラー設置工事をされている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価の項目について一つひとつ全職員で話し合いながら取り組んでいる。取り組む事で、業務の見直しや問題解決にも繋がっている。評価項目の内容が実践目標であると捉え、いつでも見られるような状態にして、振り返られている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議のメンバーは、市の職員、地区民生委員、入居者の家族や職員で構成され、2ヶ月に1回のペースで実施されている。運営推進会議報告書には、Q&A形式での記載があり、会議の内容が活動報告にとどまらず、質問、意見、要望等を受け入れ、双方向的な会議となっていることが窺える。また参加できなかった家族等が見ても、内容がとてもわかりやすく書かれているため、意見等の反映にも繋がっている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 「みどりが丘便り」を毎月発行し、入居者の日々の生活の様子やホームからの連絡など、個別に報告している。金銭については、出納簿を家族に確認してもらい、署名や印鑑をいただくようにすることで、信用にも繋がっている。また、家族等に何でも言ってもらえる雰囲気づくりに留意されている。出された意見等については、柔軟に受け止め、活かしていく姿勢があり、どの職員でも対応できるよう情報共有に努められている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の民生委員の方々との交流が深く、必要時は地域の公民館を使わせていただくなど、相談にも気軽にのっていただける関係が築かれている。地域の缶拾いや草取りのお手伝いをしたり、地域の文化祭への入居者の作品出展、お祭り見物、近くの小学校行事の見学など、地域との関わりを持っている。

2. 評価結果 (詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念	「生き活き 和やか みどりが丘」という理念には、地域との関係を断ち切らないためにも、生き活きと和やかに暮らし続けることを支えたいという想いが込められている。「生き活き」の言葉の中には【生きる】ことと【活動】の2つの意味が含まれている。この理念は2～3年継続されている。		理念については、毎年職員で話し合い、再考されている。しかし、「一度作ったままではなく、地域や入居者のニーズ、事業所の状況の変化によって現状にあった理念に作り変えていくことも必要である」という観点から、さらに地域密着型サービスの意義について理解を深められ、理念を再考されることに期待したい。
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている			
		理念の共有と日々の取り組み	入居者が筆で書かれた「理念」を壁に貼り、日々意識し、実践に取り組まれている。入居者が自分なりの役割を見出し、生き活きと過ごされている姿を目にする度に、理念の実現を実感されている。		
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる			
2. 地域との支えあい					
		地域とのつきあい	地域の民生委員の方々との交流が深く、必要時は地域の公民館を使わせていただくなど、相談にも気軽にのっていただける関係が築かれている。地域の缶拾いや草取りのお手伝いをしたり、地域の文化祭への入居者の作品展、お祭り見物、近くの小学校行事の見学など、地域との関わりを持っている。		
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている			
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		評価の意義の理解と活用	自己評価の項目について一つひとつ全職員で話し合いながら取り組んでいる。取り組む事で、業務の見直しや、問題解決にも繋がっている。評価項目の内容が実践目標であると捉え、いつでも見られるような状態にして振り返られている。前回の外部評価の結果についても改善計画シートを作成し検討され、真剣に取り組まれた成果が表れている。		
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる			
		運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議のメンバーは、市の職員、地区民生委員、入居者の家族や職員で構成され、2ヶ月に1回のペースで実施されている。報告書には、Q&A形式での記載があり、会議の内容が活動報告にとどまらず、質問、意見、要望等を受け入れ、双方向的な会議となっていることが窺える。また参加できなかった家族等が見ても、内容がとてもわかりやすく、意見等の反映にも繋がっている。		
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている			

グループホーム みどりが丘

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者は協力的で、協働できる関係が築けている。「何か地域へお手伝いできることはないか」と市の担当者に相談したところ、缶拾いや草取りを提案され、入居者と一緒に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	「みどりが丘便り」を毎月発行し、入居者の日々の生活の様子やホームからの連絡など、個別に報告している。便りはイラストを使い、家族に興味をもってもらえるよう工夫され、送付の際は、入居者の写真を同封している。金銭については、出納簿を家族に確認してもらい、署名や印鑑をいただくようにしたこと、信用にも繋がっている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等に何でも言ってもらえる雰囲気づくりに留意されている。また、出された意見等について、柔軟に受け止め、活かしていく姿勢があり、どの職員でも対応できるよう情報共有に努められている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ここ3年間は異動はない。新任の職員が就く場合は、事前に個別の処遇について充分説明をした上で、入居者との信頼関係を築くことから始めている。接遇の知識や技術、馴染みの職員のチーム力で入居者のダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体の内部研修で知識や技術を習得できる体制がある。外部研修にも職員全員が平等に参加できるように、また資格取得に向けて勤務体制や費用面での考慮など、法人全体で支援されている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム連絡協議会に加入し、研修会や情報交換等を行い、そこで得たことを支援に活かしている。また、同業者間での信頼関係も構築されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>サービス利用前に説明を充分に行い、自宅訪問や、家族と一緒に見学してもらうことを通して、馴染みながらの移行に繋げている。利用開始してからも、家族からの電話や来訪の協力を得ながら、入居者が安心感をもてるようにしている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>入居者が、感謝の気持ちや相手を思い遣る気持ちを自然に言葉で表出されるので、職員も自ずと入居者に支えられていることを実感させられる。入居者と共に過ごすことで多くの学びがあり、楽しいと語る職員の表情に、支えあう関係が垣間見えた。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居者それぞれに個性があり、その個性に合わせた接し方を検討し、支援されている。意思疎通の困難な方についても、表出の仕方やその変化の中に、思いや意向のサインが隠れていることが多く、職員は見逃さないように留意されている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人、家族の想いや要望を聴き、主治医の意見等も踏まえ、職員間の情報を得ながら介護計画を作成している。さらに職員会議で情報交換やモニタリングを行っている。しかし、実践ではできていないのに、介護計画に掲げた目標への達成感が十分に得られておらず、介護計画が独り歩きしているように見受けられる。</p>		<p>介護計画で掲げる「目標」について再考し、長期目標と短期目標の違いについてさらに考察を深められ、「目標」に見合った介護計画期間を設定されることが望まれる。</p>
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>モニタリングやアセスメントを実施し、日々の記録などでも振り返り、半年に1回だった計画作成を3ヶ月に1回行うように改善されている。職員間の情報交換の場も増え、状態変化の際には随時見直しを行っている。</p>		

グループホーム みどりが丘

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	1階がクリニックであるため、医療との連携が充実しており、医療面での安心感がある。また、同法人内に特別養護老人ホームやグループホームがあり、そこでの様々な行事に参加し楽しむ機会が豊富にある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医療機関(1階にあるクリニック)が主治医となることを、利用契約時に説明し、本人、家族の同意を得ている。必要時には、希望する医療機関への受診も可能である。週に1度の往診をはじめ、採血検査や定期健康診断も行われ、ホーム内で点滴などの医療処置も可能である。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りに対する指針がある。さらに「オンコールマニュアル」を作成し、緊急時の対応に備えている。重度化や終末期に向けた話し合いについてもできるだけ早期から行い、家族の同意を得ている。事業所の内部研修の場でも死生観教育などに触れ、認識を深めている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーの確保について、職員研修などで徹底して指導されている。入浴中のプライバシーの保護はもとより、入居者の誇りを損ねない、個性を尊重した言葉かけや接遇を心がけている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人が望む暮らしを尊重し、支援している。落ち着いて過ごせる状態が、本人にとって最も幸せなことであるという視点で、個別の習慣や大切にしている物などを把握しながら柔軟に対応している。		

グループホーム みどりが丘

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事や外食の際は、入居者と職員と一緒に食卓を囲み食事を楽しむことができる。また、山菜とりや皮むき、これからの季節は干し柿や干し大根作りと一緒に楽しむことで、「食」に通じた取り組みをされている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日できるようになっている。時間帯は午後と決められており、就寝前入浴などの支援はしていないが、特段の支障はない。入浴を拒否される入居者へは、声かけや対応の仕方を工夫し、入浴されない場合は清拭をして清潔保持に努めている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日頃から【できる支援】を心がけられており、一人ひとりの得意分野は何か、常に観察している。役割や楽しみを見出せた時の喜びは大きく、さらにそこから次なる支援に膨らませている。楽しみも、支援の仕方によっては苦痛になることを認識しており、声かけの仕方やタイミングなど細やかな配慮がなされている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者の気分や希望に合わせ、また天候を考慮し、買い物やドライブ、散歩に出かけている。近くに保育園や小学校があり、園児の散歩や児童の登下校時に居合わせた時は、入居者は嬉しそうに笑顔で手を振り挨拶を交わしている。日常的な外出をすることにより、地域に溶け込んだ支援をされている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠することはない。元々病院という立地上、階段や踊り場があり、危険防止のため安全柵が設置されているが、園芸用の装飾で工夫を凝らしている。なによりも、入居者の外出傾向を察知するのが早く、散歩で気分転換を図るなど、自由な暮らしを支援している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	事業所全体で自然災害時の訓練を実施している。地域の応援、協力体制作りにも取り組まれ、現在はスプリンクラーの設置工事中である。さらに、避難時に持ち出す備品を検討され、災害時に最低限必要な入居者の情報と顔写真入りの名札や、非常時の食料品など整備している。		

グループホーム みどりが丘

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食時の摂取量や一日を通しての水分摂取量は、個々にチェックし職員が情報を共有している。栄養状態は、毎月の採血検査でも把握しており、変化があれば主治医に相談している。献立については、クリニックの保健師や同法人内の栄養士にアドバイスをもらっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者個々の居心地のよい場所に配慮し、ベンチや椅子が置かれてある。壁には入居者の作品である書道や温かみのある絵など、また行事や外出した際の写真などが飾られてあり、心和やかに過ごせる工夫がされている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	元々は病室であった空間が、個性あふれる居室となっている。希望で畳を敷き詰め、和室に変換された居室や本来共用空間に置いてあったベンチが居室に馴染んでいたりと、お気に入りの写真や自作の手工芸品などを飾り、居室の出入り口には自作の暖簾がかけられているなど、本人らしさが滲み出ている。		